MONITOUCH テクニカルインフォメーション 2018年10月31日				
テーマ	オムロン CJ2M 内蔵 Ethernet ポートとの接続			
該当機種	V9 シリーズ	No.	TI-M-0106	1⁄13

## 1.目的

CJ2M-CPU3口の内蔵 Ethernet/IP ポートを使用して V9 シリーズと接続します。

## 2. 接続環境

モニタッチ	: V9 シリーズ
PLC	: CJ2M CPU31
使用ソフト	: V-SFT-6、CX-Programmer Version 9.64

## 3. 設定にあたって

FINS 通信を行う場合、FINS のアドレス体系に従ったノードの指定が必要になります。また、Ethernet ネットワーク上では、IP アドレスに従ったデータの送受信が必要です。

そこで CJ2M 側では、FINS ノードアドレスから IP アドレスを求める、アドレス変換が行われます。変換方式には3種類ありますが、ここでは「自動生成方式」と「IP アドレステーブル方式」を利用した設定方法について説明します。

## <u>自動生成方式</u>

CJ2Mの IP アドレスの最下位バイトを、FINS ノードアドレスとしてそのまま使用する方式です。 動的/静的の2種類があります。



### <u>IP アドレステーブル方式</u>

対応表(IPアドレステーブル)に基づいて、CJ2Mに接続する機器のFINSノードアドレスを IPアドレスに変換する方 式です。FINSノードアドレスと IPアドレスを自由に対応付けられます。



テクニカルインフォメーション	No.	TI-M-0106	2⁄13
テクニカルインフォメーション	NO.	II-M-0106	2/13

V-SFT-6 は CS1/CJ1/CJ2 (Ethernet) と CS1/CJ1/CJ2 (Ethernet Auto) の2種類の通信方法があります。

## CS1/CJ1/CJ2 (Ethernet)

V-SFT-6の設定の中で V9 側のノードアドレス、PLC 側のノードアドレスを指定します。

<注意>

 SYSMAC CS1/CJ1/CJ2 (Ethernet)を選択して通信する場合、V9のノード No. は1~126 に制限されます。 1~126の範囲内で設定してください。

## <u>CS1/CJ1/CJ2 (Ethernet Auto)</u>

V9 および PLC それぞれの IP アドレスの下位バイトをノードアドレスとして使用します。

本書は、<u>PLC側で「自動生成方式」と「IP アドレステーブル方式」を利用した場合に</u> V-SFT-6の <u>SYSMAC CS1/CJ1/CJ2 (Ethernet)、SYSMAC CS1/CJ1/CJ2 (Ethernet Auto)</u>で通信する方法を説明します。

<設定例>

V9 : 192.168.1.100、ポート 9600 (CJ2M のポート番号に合わせる) CJ2M : 192.168.1.50、ポート 9600 (初期値)

#### 4. CX-Programmer の設定手順

① CX-Programmer を起動し、機種設定を行います。

PLC機種変更 ×	PLC機種の設定 [CJ2M] X
PLCネーム 新規PLC1  PLC機種	-般 CPU形式
[CJ2M ・ ]	ア 07 31.07合計           SK [Step]
「 すべて表示 」 3X小	
OK キャンセル ヘルフ (H)	

 ② プロジェクトの [I/0 テーブル・ユニット設定] をダブルクリックします。[PLC の I/0 テーブル] が 表示されます。[内蔵ポート/インナーボード] から、[CJ2M-EIP21(CJ2M 用内蔵 EtherNet/IP ポート)] をダブ ルクリックします。



Hakko Electronics Co., Ltd.

テクニカルインフォメーション No. TI-	M−0106 3∕13
------------------------	-------------

③ [CJ2M-EIP21 パラメータの編集] ダイアログが表示されます。

☞ 次の71 レスを使用する	8					〇 DNSを使用する
1P71- 12	0.	0	. (	D .	0	優先DNSサーバ 0 . 0 . 0 . 0
97° ネットマスク	0.	0	. (	э.	0	代替DNSサーバ 0.0.0.0
デ フォルトゲ ートウェイ	0.	0	. (	ο.	0	F XD名
BOOTP設定は次回 のみ有効です。 その後、BOOTP設 取得できたIP7ドレ 保存Lます	]のユニットリス: 定は解消さ は、システム設	8-ト(省 れます !定とし	E)県内 。 ,てユニ:	波入	)で1回 に自動	IPルーダテーブ ルー           IPアド レス           ゲートウェイアド レス           挿入
BOOTP設定は次E のみ有効です。 その後、BOOTP設 取得できたIP7ドレ 保存します。 一斉同報 (* すべて1(4.3BSD) (* すべて0(4.2BSD)	ロのユニットリス 定は解消され は、システム設	タート(留 れます (定とし	E)県内	-	)で1回	■ [IP-57-7 k

④ [TCP/IP] タブで、CJ2M本体の IP アドレス、サブネットマスクを設定し、[OK] をクリックします。

Contented Finds Code Finds, CC Find     Finds     Finds	C DNSを使用しない     C DNSを使用しない     C DNSを使用しない     使先DNSF-n <sup>2</sup> 0 - 0 - 0 - 0     (     f 型DNSF-n <sup>2</sup> 0 - 0 - 0 - 0     F メジネ     [
	(C) (C) のK キャンセル

 パラメータ設定を行います。[IP アドレス変換]の設定によって、設定内容が異なります。 [FINS/UDP] タブで、次の通りに設定します。

■目動生成万式の場合
------------

-----

[FINS/UDP ポート] で初期値 (9600)を選択します。 [IP アドレス変換] で「自動生成方式」を選択します。

CI2M-EIP21 [パランータの編集] ×		白手
TCP/IP         Ethermet         FINS/UDP*         FINS/TCP         FTP         時計自動調整         37-37.217         SNIMP         SNIMP1577           FINS/UDP*-1-         (7)77 <td< td=""><td></td><td>CJ2 レフ</td></td<>		CJ2 レフ
□ □ □ □ □ □ □ □ □ □ □ □ □ □ □ □ □ □ □		変更
<ul> <li>(F) デカフェ</li> <li>(C) IP7ドレステプ が方式</li> <li>相手IP7ドレス助約変更</li> <li>(A) 日本 IP1ビレスを始め原要素を</li> </ul>		自調
<ul> <li>・ (福手//アレジ(御)(次見5))</li> <li>○ 相手//アレジ(御)(次見5)</li> <li>○ 目N11互換</li> </ul>		CJ2 レン 変列
転送[ユニットーバソコン](E) 転送[ベソコンーユニット](D) 照合(C) りスタート(B)	L	

## <u>自動生成方式(動的)</u> CJ2M の相手先(この場合 V9)の IP アド レスやポート No. が最初の通信時から 変更されても通信可能です。 ※[相手 IP アドレス動的変更]で 「相手 IP アドレスを動的変更する」 の選択が必要です。

## <u>自動生成方式(静的)</u>

Г

CJ2Mの相手先 (この場合 V9)の IP アド レスやポート No. が最初の通信時から 変更されると通信できません。

自動生成方式: IP アドレスの最下位バイトが"50"なので、CJ2M のノードアドレスは"50"となります。

テクニカルインフォメーション	No. TI-M-0106	4/13

■IP アドレステーブル方式の場合

※IP アドレステーブル方式の場合、[相手 IP アドレス動的変更]の設定により IP アドレステーブルの 設定が異なります。

 ◎「相手 IP アドレスを動的変更する」の場合 次の通りに設定します。
 FINS/UDP ポート : 初期値 (9600)
 IP アドレス変換 : IP アドレステーブル方式

CJ2M-EIP21 [バラメータの編集]		×
TCP/IP Ethernet FINS/UDP FINS/TCP FTP	│時計自動調整│ステータスエリア│SNMP│SNMPトラッブ│	
FINS/UDPボート (* 初期値(9600) C ユギ 定義 0 IP7ドレス変換	- IP7ド Lot 2-51	<b>育入</b> 川除
<ul> <li>         自動生成方式(動的)         ご 自動生成方式(動的)         、供用方式         ・(PF)ドレステーブル方式         ・)         </li> </ul>	IP アドレステーブルの 登録は必要ありません。	
相手IP7F レス動的変更 相手IP7F レスを動的変更する ご相手IP7F レスを動的変更しない C ETN11互換		
転送[ユニット→バソコン](E) 転送[バソコン→ユニット]([)	照合(C)	IJスタ−ŀ( <u>R)</u>
デ フォルト設定に戻す(E)	ОК	キャンセル

 ◎「相手 IP アドレスを動的変更しない」の場合 次の通りに設定します。
 FINS/UDP ポート : 初期値(9600)
 IP アドレス変換 : IP アドレステーブル方式

CJ2M-EIP21 [ヘ <sup>*</sup> ラメータ <mark>) [標集]</mark>	$\times$
TCP/IP     Ethernet     FINS/UDP     FINS/UDP     FINS/UDP     FINS/UDP     FINS/UDP     FINS/UDP     SNMP     SNMP     SNMP     SNMP     SNMP     FINS/UDP     FINS	
転送[ユニットー・ハ' ソコン](E) 転送[ハ' ソコンーユニット](D) 照合(Q) リスタート(B)	
デ 71hh設定に戻す(E) OK キャンセル	

設定したら、[IP アドレステーブル]の登録をするため、[挿入]をクリックします。

テクニカルインフォメーション	No. TI-M-0106	5/13

[IP アドレスの挿入] ダイアログが表示されるのでネットワーク上の V9 のノードアドレスと
 IP アドレスを登録します。
 この際、V-SFT-6 の [PLC 機種] 設定によって V9 のノードアドレスが異なります。
 下記のように設定してください。

◆V-SFT-6のPLC機種を<u>「SYSMAC CS1/CJ1/CJ2(Ethernet)」</u>に設定した場合、

ノードアドレスは1~126の範囲で自由に選択できます。

今回の例ではノードアドレスを「2」、V9の IP アドレス: 192.168.1.100 を登録します。

アアドレスの挿入		×
ノートアトレス	2	
IPアトレス	192 . 168 . 1 . 100	
	ОК	
	キャンセル	

#### 以下のように登録されます。

FINS/UDPが -ト で 初期値(9600) C 2-ザ 定義 回 IP7ド レス変換 C 自動生成方式(動的) C 自動生成方式(時的) C 併用方式 で IP7ド レステ-ブ ル方式 相手IP7ド レスを動的変更する C 相手IP7ド レスを動的変更する の 相手IP7ド レスを動的変更しない	IP7ドレステーブル     現先/-ドブドレス     挿入       夏先/-ドブドレス     現入       192.168.1.100     削除
<ul> <li>C 相手IP7F 以を動的変更する</li> <li>C 相手IP7F 以を動的変更しない</li> <li>C ETN11互換</li> </ul>	

◆V-SFT-6のPLC 機種を<u>「SYSMAC CS1/CJ1/CJ2(Ethernet Auto)」</u>に設定した場合、

ノードアドレスは自 IP アドレスの最下位バイトになります。今回の例ではノードアドレスを「100」、V9 の IP アドレス: 192.168.1.100 を登録します。

IPアドレスの挿入		$\times$
ノートアトレス	100 💼	
IPアドレス	192 . 168 . 1 . 100	
	ΟΚ	
	キャンセル	

テクニカルインフォメーション	No. TI-M-0106	6/13
テクニカルインフォメーション	NO. 11-M-0106	6/13

以下のように登録されます。

CJ2M-EIP21 [バラメータの編集]		×
TCP/IP         Ethernet         FINS/UDP         FINS/TCP         FTP           FINS/UDP*<-h	時計自動調整  ステータスエリ7  SNMP  SNMP 5ッブ   P7ドレスープル <u> 宛先/ードアドレス </u> 焼ん/ート、アドレス 100 192.168.1.100 削除	
C FTN11互換		

※ PLC のノードアドレスは CJ2M 上のロータリースイッチで設定します。(手順⑦参照)

⑥ [転送 (パソコン→ユニット)]をクリックして設定を転送します。

計自動調整   ステータスエリア   SNMP   SNMP	ŀ7ッ7'
IP7ド レステーブ ル <u>宛先/-ド 7ド レス 宛先</u> IP7ド 1 100 192.168.1.100	·2. 挿入 前除
照合(0)	リスタート( <u>R</u> ) OK キャンセル
→状態で操作が有効です。 - 新規PLC1.新規7 ロジ វム1.セタション1 [ラデ -図 (()) PLC() プロダ 3ム(P) シミュレーション(S) (() PLC() プロダ 3ム(P) シミュレーション(S) () ま数7/74/接続(N)	11 7-h(T) 2 +W 3
	計自動調整 27-922177 SNMP SNMP IP7F 125-7 ルー <u> 宛先/-F 7F 122 宛先/PF 11</u> 100 192.168.1.100 I00 192.100 I00 192.100 I

⑦ CJ2M のロータリースイッチをノード No. と合わせます。
 (スイッチを変更した際は PLC の電源を再投入してください。)



■自動生成方式の場合

IP アドレスの最下位バイトがノードアドレスになります。 最下位バイトの値を HEX に変換し、設定してください。 今回の例では「32 (HEX)」と設定します。 PLC IP アドレス: 192.168.1.50 50=32 (HEX)

■IP アドレステーブル方式の場合

◆V-SFT-6の PLC 機種を<u>「SYSMAC CS1/CJ1/CJ2 (Ethernet)」</u>に設定した場合、 ノードアドレスは自由に選択できます。 今回の例では「01 (HEX)」と設定します。

 ◆V-SFT-6の PLC 機種を「SYSMAC CS1/CJ1/CJ2(Ethernet Auto)」に設定した場合、 IP アドレスの最下位バイトをノードアドレスに設定します。
 最下位バイトの値を HEX に変換し、設定してください。
 今回の例では「32(HEX)」と設定します。
 PLC IP アドレス: 192.168.1.50 50(DEC) = 32(HEX)

## 5. V-SFT-6 での設定手順

■PLC 機種に「SYSMAC CS1/CJ1/CJ2(Ethernet Auto)」を選択する場合

① V-SFT-6 を起動し、新規画面を作成します。

[編集機種選択] で、モニタッチの機種を選択し、[OK] をクリックします。

次に、[PLC1 接続機器選択] で、「<u>オムロン SYSMAC CS1/CJ1/CJ2(Ethernet Auto)」</u>を選択し[完了] をクリ ックします。

接続機器選択		×
接続機器	PLC	~
メーカー	オムロン	~
機種	SYSMAC CS1/CJ1/CJ2(Ethernet Auto)	~
PLC No.	1	~
		最近使用した機器と
	完了	キャンセル

② [PLC1 プロパティ]の[通信設定]で、V9のポート No. 9600を設定します。

PLC1 プロパティオムロン SYSMA	C CS1/CJ1/CJ2(Ethernet Auto)	X
デフォルトに戻す		
□ 通信設定		
接続形式	1:1	
リトライ回数	3	
タイムアウト時間(×10msec)	500	GJ2M のホート NO. の初期値は 9600 です。
送信遅延時間(×msec)	0	─────────────── V9 のポート No. も "9600" にします。ユーザ♬
スタートタイム(×sec)	0	で他のNo にした場合け そのNo に合わせま
伝送形式	伝送形式1	
ポートNo.	9600	————————————————————————————————————
コード	DEC	方式で「相手 IP アドレスを動的変更する
文字処理	LSB→MSB	た選切」た提合 任音のポートNo でき
通信異常処理	停止	を送扒した場合、正息の小一ドNO. Cも
□ 細かい設定		通信できます。
優先度	1	
システムデバイス(\$s) V7互換	しない	
□ 接続先設定		
接続先	0:	
PLCテーブル	設定	
接続確認デバイス使用	しない	
□ ラダーモニタ		
ラダーモニタ	設定	

③ [接続先設定]で、PLCテーブル編集をします。
 以下の様に、CJ2Mの IP アドレスとポート No. を登録します。
 DICニーブルのドニに発行しても問題をしませく。

PLC テーブルのどこに登録しても問題ありません。今回はテーブル「0」に登録します。

LC7-	フル			$\times$
PLC	テーブル			
No.	. 局名	IPアドレス	ポートNo	~
0	PLC	192.168.1.50	9600	
1				
2				
3				
4				1
5				1
6				1
7				

テクニカルインフォメーション №. TI-M-0106 9/
--------------------------------

④ 接続先で、手順③で登録した PLC テーブル No. を選択します。

PLC1 プロパティオムロン SYSMAC CS1/	/CJ1/CJ2(Ethernet Auto)	×
デフォルトに戻す		
∃ 通信設定		
接続形式	1:1	
リトライ回数	3	
タイムアウト時間(×10msec)	500	
送信遅延時間(×msec)	0	
スタートタイム(×sec)	0	
伝送形式	伝送形式1	
ポートNo.	9600	
コード	DEC	
文字処理	LSB→MSB	
通信異常処理	停止	
□ 細かい設定		
優先度	1	
システムデバイス(\$s) V7互換	しない	
コ 接続生設定		
接続先	0:192.168.1.50(PLC)	
PLCテーブル	設定	
接続確認デバイス使用	しない	
□ ラダーモニタ		
ラダーモニタ	設定	

⑤ [システム設定]→[Ethernet 通信]→[自局アドレス]を表示し、V9のIPアドレスを登録します。 本体の操作でIPアドレスを設定する場合は手順⑦へ進んでください。

IPアドレス設定		×
LAN LAN2 通信	1275	
☑ IP設定を行う		
IPアドレスをネット	フークテーブルから選択する No.0	
IPアドレス 19	2 . 168 . 1 . 100	
□デフォルトゲートウェ	ef 0.0.0.0	
□ サブネットマスク	0.0.0.0	
ポートNo.	10000	
送信タイムアウト時間	15 'sec	
リトライ回数	3	
デバイスプロテクト		
口内部デバイス	□ メモリカードデバイス	
	OK キャンセノ	ŀ

/ 🏫 不少トリークナー	
No. 局名 IPアト	ス 送信タイムアウト ポート リトライ 内部デバイス書き込 メモリカードデバイス書
0 1 V9 192.1 2 3	.1.100 15 10000 3 許可 許可
4 5 6 7	
8	
	体の採用でインドン ノン シル 10. を改定する場合は ロマ シを参照し
	₽7FJ282 ×
	P2代/2期度 × IAN IAN2 遺信ユニット 回回教業代刊
	#270人2時度 × IAN LAN2 遺信ユニット 回便若葉気行引 回 PPFルノスモキットワークテーブルから編成する No.1 二
	P2PA(28度
	IDTPに支援者         ×           LAN         単常はコニット           ビジドや支援者ションラーフラーブルから編択する         Nac 5           ビジアドレス シャッパラ・フラーブルから編択する         Nac 5           ビジアドレイン いいいいいいいいいいいいいいいいいいいいいいいいいいいいいいいいいいいい
	アクトス接触         ×           LAN         LAN2         連環コニット・           ビジ油管道電子ットラークラーブルから温暖する         Na         1           ビッドマルスをホットラークラーブルから温暖する         Na         1           ビッドマルストボートウェイ         0         0         0           ・・         ・         0         ・         0           ・         ・         0         ・         0           ・         ・         0         ・         0           ・         ・         0         ・         0           ボートやい         10000         1         1

⑥ 画面データを転送します。

⑦ V9の IP アドレス設定を本体で行います。
 手順⑤の「IP アドレス設定」で自局の設定をした場合は必要ありません。
 ローカル画面から[LAN 設定]画面に入ります。
 [IP アドレス]のアドレス表示箇所を押し、表示されたキーボードで IP アドレスを設定し、書き込みキーを押します。

[適用]スイッチで設定を確定します。

	LAN設定 2017-02-22 06:59:22	(married)		LAN設定 2017-02-22 07:00:1
RUN	IP設定 ネットワークテーブル オプション 編集	(max)	RUN	IPI設定 <sup>ネットワークテーブル</sup> オプション
システム情報	IPアドレス         192, 168, 1, 173         外部アクセス           サブネットマスク         255, 255, 255, 0         サービスボート         10000		システム情報	IPアドレス I92, 168, 1, 100 サブネットマスク 255, 255, 2
会 言語設定	ゲートウェイ タイムアウト 15 **sec WCアドレス 00:50:FF:00:EB:17 リトライ回数 3	(FE)	<b>父</b> 言語設定	ゲートウェイ         タイムアウト         15         *sec           MACアドレス         60:50:FF:09:EB:17         リトライ回数 3
M LAN££	ネットワークテーブル No 局名 IPアドレス サブネットマスク ゲートウェイ サービスボー	[[]]	LANERE	ネットワークテーブル No 局名 IPアドレス サブネットマスク ゲートウェイ サービスボー
》 VPN股定		<u>F4</u> ]	9 VPNIQ:E	
クラウド設定		[[5]]	! "	# \$ % ~ 7 8 9 BS 🗙
🔛 E-Mail設定		FS		- * / , 1 2 3 ↑ ↓
1 🗢	<ul> <li></li></ul>	[F7]	- A1	

[システム情報] →	本体情報]	タブ→ [Ethernet 情報] で設定内容を確	認します。
	RUN	LAN設定 2017-02-22 07:02:56 TPMD: ネットワークテーブル ナイション	(SARIAN)
	0	IPアドレス 192,168,0.100 サージンズ 192,168,0.100	
	システム情報 <b>愛</b>	サブネットマスク 255, 255, 0     ワーレウェイ       ゲートウェイ     タイムアウト	(FE)
	言語設定	MACアドレス 00:50:FF:09:EB:17 リトライ回数 3	
	LAN設定	ネットワークテーブル No 局名 IPアドレス サブネットマスク ゲートウェイ サービスボ	
	WPN股定	0         192 <th192< th=""> <th192< th=""> <th192< th=""></th192<></th192<></th192<>	
	クラウド設定		<u>[F5]</u>
	E-Mail 10 th		FS
		■ 読売データの ● 設定に戻す ● キャンセル ● 適用	[F7]
		MONITOLICH	•

テクニカルインフォメーション No. TI-M-0106 11/
----------------------------------

# ■PLC 機種に「SYSMAC CS1/CJ1/CJ2(Ethernet)」を選択する場合

V-SFT-6を起動し、新規画面を作成します。
 [編集機種選択]で、モニタッチの機種を選択し、[OK] をクリックします。
 次に、[PLC1 接続機器選択]で、「<u>オムロン SYSMAC CS1/CJ1/CJ2 (Ethernet)」</u>を選択し[完了] をクリックします。

PLC1 接続機器	躍択	×
接続機器	PLC	~
メーカー	オムロン	~
機種	SYSMAC CS1/CJ1/CJ2(Ethernet)	~
接続先ポート	LAN	~
		<u>最近使用した機器&gt;</u>
	完了	キャンセル

[PLC1 プロパティ]の「通信設定」で、V9のノードアドレスとポート No. 9600 を設定します。

PLC1 プロパティオムロン SYSMAC C デフォルトに戻す	S1/CJ1/CJ2(Ethernet)	×
<ul> <li>通信設定 接続形式 りトライロ数 タイムアウト時間(× 10msec) 送信遅延時間(× msec) スタートタイム(× sec) 伝述形式</li> </ul>	1:1 3 500 0 0 500 0 500 500 500 500 500 500	CJ2M のポート No. の初期値は "9600" です。 V9 のポート No. も "9600" にします。ユーザ定義 で他の No. にした場合は、その No. に合わせます。
<ul> <li>ノードアドレス ボートNo.</li> <li>□</li> <li>□</li></ul>	2 9600 <del>&gt;EO</del> LSB→MSB (停止 1 したない	※目到生成方式(到的)、IPアドレステーフル 方式で「相手 IP アドレスを動的変更する」 を選択した場合、任意のポート No. でも 通信できます。
<ul> <li>■ 情報を元款定 接続先 PLOテーブル 接続確認デバイス使用</li> <li>ラダーモニタ</li> </ul>	50:192.168.1.100(PLC) 設定_ しない 設定_	

V9 のノードアドレスは PLC 側の「IP アドレス変換」の設定により異なります。下記のように設定してください。

■PLC 側の「IP アドレス変換」の設定が「自動生成方式」の場合

自局 IP アドレスの最下位バイトがノードアドレスになります。今回の例では「100」と設定します。 V9 IP アドレス: 192.168.1.100 ノードアドレス=100

■PLC 側の「IP アドレス変換」の設定が「IP アドレステーブル方式」の場合 ©PLC 側「相手 IP アドレスを動的変更する」が選択されている場合 ノードアドレスは自由に選択できます。今回は「2」と登録します。

◎PLC 側「相手 IP アドレスを動的変更しない」が選択されている場合
 ノードアドレスは PLC 側の「IP アドレステーブル」の設定に合わせます。
 今回の例では「2」となります。(P.5 参照)

```
く注意>
```

SYSMAC CS1/CJ1/CJ2 (Ethernet)を選択して通信する場合、V9のノードアドレスは1~126に限定されます。

テクニカルインフォメーション	No.	TI-M-0106	12/13

- ③ [接続先設定]で PLC テーブル編集をします。 ここでは接続する PLC の IP アドレスとポート No. を登録します。PLC 機種を「SYSMAC CS1/CJ1/CJ2 (Ethernet)」 と設定している場合、PLC テーブル No. =PLC のノードアドレスとなります。 また、PLC のノードアドレスは PLC 側の「IP アドレス変換」の設定により異なります。下記のように設定して ください。
  - ■PLC 側の「IP アドレス変換」の設定が「自動生成方式」の場合 自動生成方式の場合はノードアドレス=自局 IP アドレスの最下位バイトとなります。 そのため、IP アドレスの最下位バイトと PLC テーブル No. を揃えて設定します。 今回の例では PLC テーブル No. 「50」に PLC の IP アドレス「192. 168. 1. 50」を登録します。



■PLC 側の「IP アドレス変換」の設定が「IP アドレステーブル方式」の場合 PLC のロータリースイッチで自由にノードアドレス設定ができます。

ロータリースイッチで指定した番号と同じ PLC テーブル No. に PLC の IP アドレスを登録します。 今回の例では PLC テーブル No. 「1」に PLC の IP アドレス「192. 168. 1. 50」を登録します。

PLCテーブル			×
PLCテーブル			
No. 局名	IP7	<sup>7</sup> ドレス ポートNo	^
1 PLC	192.	168.1.50 9600	
2			-
4			
5			

<注意> ・ CJ2M のノードアドレス No. と PLC テーブル No. が異なると、「異常コードを受信しました 受信コード 10050XX」が表示されます。 (XX=CJ2M のロータリースイッチで設定されている No.)

テクニカルインフォメーション	No. TI-M-0106	13/13

④ [接続先]で、手順③で登録した PLC テーブル No. を選択します。

デフォルトに声オー		
接続ポジェン		
リトライ回数	3	
タイムアウト時間(×10msec)	500	
送信遅延時間(×msec)	0	
スタートタイム(×sec)	0	
伝送形式	伝送形式1	
ノードアドレス	2	
ポートNo.	9600	
コード	DEC	
文字処理	LSB→MSB	
通信異常処理	停止	
□ 細かい設定		
優先度	1	
システムデバイス(\$s) V7互換	しない	
日 接続牛設定		
接続先	50:192.168.1.50(PLC)	
PLCテーブル	設定	
接続確認デバイス使用	しない	
ラダーモニタ		
ラダーモニタ	設定	

⑤ V9のIPアドレスを登録し、画面データを転送します。「■PLC 機種に「SYSMAC CS1/CJ1/CJ2(Ethernet Auto)」
 を選択する場合」の⑤~⑦(P.9~10)を参照してください。

【お問い合わせ】 発紘電機株式会社 技術相談窓口 フリーコール: 0120-128-220 FAX: 076-274-5208